貝類館セミナー 2021初秋

貝をダシにした文化あれこれ～世界の音楽

2021年9月4日（土）　西宮市文化振興課アドバイザー／神戸女学院大学非常勤講師　上念省三

今日の進め方について

- 緊急事態宣言発出に伴い、急遽このように画面越しでのお話となってしまって残念です。
- 本講座は、録画の上後日YouTubeで公開の予定ですので、お顔は出さずにご覧ください。途中退出などもご自由になさってください。
- 聞き取りにくい等の問題がありましたら、チャット機能でメッセージをいただければ、対応できると思います。
- 今回のテーマは「音楽」ですので、音声や動画をご紹介することが多いのですが、Zoomで音楽や動画をこちら側からお送りすると、音質や画質が劣化することが予想されるので、後日YouTube等で別途再生してお聴きになってみてください。
- 最後にご提示するアンケートにご協力いただきますよう、お願いいたします。

2

貝はなぜ魅力的なのか？

美しい　いろいろな形（巻貝、二枚貝…）、色、大きさ
とりあえず手に入れやすい　浜辺で拾える
（貝殻としては）劣化しにくい
何かを覆っている
海底に生息しているものも多い
生きているのかいないのか
おいしい w
珍しいものがある
海・海底⇒異国、異文化のイメージ

装飾品としての利用
子どもでも親しみやすい
宝飾品としての利用
神秘性
入手困難、神秘性
生命の神秘
実用性
希少性、貨幣に
エキゾチシズム

https://youtu.be/EBIPKFCXY2U
神奈川県立近代美術館 葉山
「国立民族学博物館コレクション 貝の道」展 の紹介映像をご覧ください
（特に2分20秒あたりまで）

3

自己紹介

スイジガイ　南西諸島ではこれを門口にかけて火事除(よ)けのまじないとする風習がある。古墳時代には本州の広い範囲で、中央に穴をあけて、腕輪（釧・くしろ）として用いられた

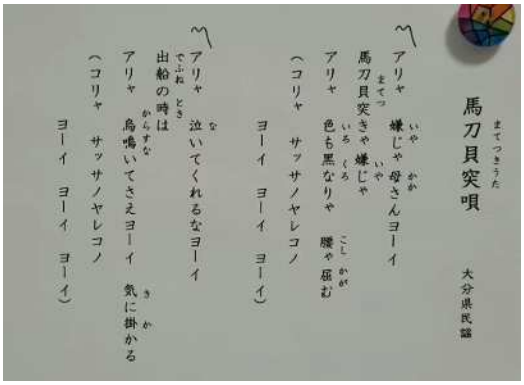
マテガイ（馬刀貝）　鞘に収めた馬手差（めてざし）に似ていることから。塩分濃度に敏感であり、急激な変化があると巣穴から飛び出す。食用、二枚貝

4

マテガイといえば、潮干狩りの定番の貝ですが、「漁」となると、勝手が違ったようです。

「マテ貝突き漁は晩秋から春にかけて（二月から五月ごろまでとも言われる）の時期で、小さな船を漕ぎながら海に出て、「まてつき」（下写真）という重りつきのモリを船上から１０メートル程度下の砂地に約三十分かけて突き刺していくことで捕獲したといわれる。……馬蛤貝（マテガイ）を採るときに「馬蛤突き唄」が歌われていた。」（HIMOROGI 文化財Wiki より）

「たくさんのカギ爪のついた漁具を海底の砂地に下ろしては引き上げるという漁法で、昭和30年代まで行われていた。寒風の中で重い漁具を上げ下げするのは非常に骨の折れる仕事だったという。半農半漁の地域では、農閑期の副業としてはそれなりの儲けだったそうだが重労働なので「漁師のクドロ（苦労）」と言われた」（大分県の作業唄その9 より）



そのようなきつい労働の中から、「労働歌として生まれたのが、民謡「まてつき歌」です。
【まてつき歌〔正調〕豊後北江】
https://youtu.be/lNhnCQWVIf0 の45秒あたりから、上の歌詞。
漁師たちは四国北西部から九州北東部にかけて、広く活動し、歌われていたものと思われます。
その他、鳥取県・浜村温泉の貝殻節でも、「色は黒うなる身はやせる」と歌われます。

5

貝の楽器といえば…①ガリシア地方（スペイン北西部）

クンチャスCunchas ＝ホタテ貝のパーカッション

貝殻パーカッションは世界中で使われているのだろうけど、Cunchas は、スペインの海に近い北西部の地域での民族音楽で伝統的に愛用されている重要な楽器。ホタテ貝の表面は波打っていてギザギザしている。貝殻の大きさも手に収まるサイズで扱いやすい。両手に持ってこすり合わせるとシャキシャキ・ジュリジュリとリズムを刻むことができる。

（私家版楽器事典 http://saisaibatake.ame-zaiku.com/musical_instrument/cunchas.html ）

As Cunchas(ガリシア語で貝）
https://youtu.be/6H1ZwMv08jA

6

ガリシア地方～サンティアゴ・デ・コンテスポラのある自治州

ガリシアはスペインの北西に位置し、大西洋とカンタブリア海に面しています。美しい海岸線と緑豊かな内陸に、朴訥とした人々が歌うようなイントネーションの柔らかなガリシア語を話す、そんな場所です。

カトリックの巡礼の聖地サンティアゴ・デ・コンポステラを有すガリシアですが、その背景には複雑な宗教・政治・民衆による長い歴史があります。

ガリシアではトラディショナル、素朴で昔ながらの料理が多く現在も食べられています。海側の豊富な魚介を使用した料理は非常にシンプルで、素材そのままを活かす料理が多いのに比べ、内陸はミルクやチーズ、小麦、とうもろこしなどを使った保存性の高い料理が作られます。

https://greenspainplus.net/galicia/

⇒ガリシア地方の名物料理「ガリシアーダ」。大皿に盛られた海鮮料理

貝の楽器といえば…②西アフリカ ヨルバ族

シェケレShekere

大きな中空の瓢箪の周りに植物の種子・豆・ビーズ・貝などを通した網を編んで張り巡らせた打楽器。
奏法はさまざまで、マラカスのように振り回したり、叩いたりして、音を出し、リズムを取りながら演奏する。
アフリカでは、マリ共和国・ガーナ、ケニアなど多くの国で用いられている。ラテンアメリカではアフリカ音楽とともにキューバやブラジルに伝来し、アフロキューバ音楽・サルサ・ジャズなどのポピュラー音楽や、サンテリア（神々を崇める西アフリカ伝来の宗教儀式）などで用いられる。

https://youtu.be/mmJm91UPGfs
Yosvany Terry Shekere Solos 貝製ではありません
https://youtu.be/cOYUvxZsYu0
Cowri Shells（タカラガイ）のシェケレ

8

ヨルバ族の地域と文化

西アフリカのナイジェリアからベナン，トーゴにかけての地域に住む民族。この地域では15世紀ごろからタカラガイが貨幣として流通するようになった。当時、奴隷貿易が始まり、ダホメ王国など西アフリカ諸国は潤っていた。18～19世紀にはタカラガイの急増によって、その価値は大きく下落した。ヨルバ族も奴隷取引によってキューバなど中南米に渡った者が多く、キューバ音楽のルーツの一となった。

彫像 イベジ　ナイジェリア［民族：ヨルバ］
タカラガイを衣裳として使っている

ヨルバ族によるゲデレという崇拝と儀式の舞踊

タカラガイ（子安貝）の革袋をお守りにする。ベナン共和国

真珠が表わすもの

そもそも真珠は、アコヤガイなどの貝類の体内に砂粒などが入って吐き出せなくなった場合に、それらの異物を貝殻成分で覆ってしまったものです。この特性を応用したのが真珠養殖で、基本的には殻をもっていればどんな貝でも真珠（真珠様物質）を作ることができるのです。

しかし、美しい光沢を持った宝石としての「真珠」は貝殻内面にキラキラとした輝き（構造色）を持った真珠層を持つ貝でないと作ることができません。（三重県のサイトに追補）

西洋では、クレオパトラ7世（BC69～BC30）が、アントニウスを招いた宴会の際に、葡萄酒の盃に、イヤリングにしていた大粒の真珠を落としたというエピソードが知られています（次ページ）。真珠の主成分は炭酸カルシウムで、葡萄酒の酸と反応して炭酸ガスを発生、シャンパンのようになったのではないかといわれています。（サトクリッフ『エピソード科学史1化学篇』現代教養文庫より）

ヨーロッパでは真珠を「水」と女性に結びついた「月」のシンボルとみる地方があり、その呪力に対する信仰が先史時代からみられるそうです。（『世界宗教用語大事典』より）

6月の誕生石としても知られ、愛らしい純真さ、純粋無垢、健康、長寿を表わすとされています。

また、その神秘的な輝きから「月の涙」や「人魚の涙」と呼ばれ、涙の象徴とされてきました。葬儀で身につけてもよいとされているのも、このことに根拠があると言われています。

10

「クレオパトラの饗宴」（部分）
Gerard Hoetヘラルト・フート 17世紀後半～18世紀前半、オランダ
https://artsandculture.google.com/asset/the-banquet-of-cleopatra-gerard-hoet/8wHnSzys37B5hw?hl=ja

11

マナール湾の真珠採り

1498年、ポルトガルのバスコ・ダ・ガマはインドに到達し、さらにセイロン島にも進出して真珠を採取した。インドをスリランカ島から分ける、マナール湾とポーク湾（またはポーク海峡）の浅瀬は、数千年に渡り、天然パールの重要な原産地となっている。

オランダ共和国は当時盛んだった真珠貿易にのりだし、他の贅沢品とともにアジアからアムステルダムへと真珠を輸入していた。南インドとスリランカの間に位置するマナール湾は、17 世紀に真珠採りが行われていた一大産地の 1 つである。

フェルメールと真珠は、切っても切れない関係にある。現在彼の作品とされている 36 点のうち 18 点に真珠が描かれているほどだ。この時代、真珠は大流行していた。フェルメールは、芸術史上最も有名な「真珠を描いた画家と言っても過言ではないだろう。『真珠の耳飾りの少女』で少女が身に付けている真珠が代表的である。

MAP OF THE GULF OF MANAR, "THE SEA ABOUNDING IN PEARLS"

12

ヨハネス・フェルメール「真珠の耳飾りの少女」１６６５ごろ
「天秤を持つ女」１６６２ごろ

13

真珠産業と労働

オランダによるマナール湾（インドとスリランカの間）の植民地統治時代（1658～1796）に、真珠採取がさかんであった。オランダの指揮下では、採取の間隔をあけ、貝に必要な生育期間を設けていた。過剰採取のために真珠がとれなくなっていたためである。自然環境のもとでの真珠貝の生育サイクルは、約5年である。真珠貝の生育を阻む、ある種の海藻や別種のカキ貝などのさまざまな自然界の天敵もいた。そこに、人間による乱獲が加わったのである。

マンナール湾のあたりはサメなどの大魚が多く、真珠採取は命がけの作業であった。潜水士は、鼻と耳をふさぎ体に油を塗る。首の周り、もしくは左腕の下にかごを装着し、約６kgの重さの石を足にくくりつけて海に潜る。そして、できるだけ早く真珠貝を拾ってかごに入れる。 かごがいっぱいになるとロープを引き、ボートに乗っている同僚が急いで引き上げる。潜水士たちは交代で潜水し、休憩をとる間に体力を回復させる。潜水作業は、夕刻にボートが真珠貝でいっぱいになるまで続く。

真珠貝を積んだボートは村に戻り、貴重な貝を降ろす。すると、海岸の収穫小屋の前には、仕分けされた貝の山が積みあげられていく。潜水士たちは、その周りにすわり、貝を開けて真珠を探す。すべての貝に真珠が入っているわけではない。

採取後の真珠は、「キチーニ」と呼ばれた真珠の専門家が分類し鑑定した。真円または真球の真珠は最高品質である。二つ目のカテゴリーは球形に近い真珠であり、そのあとに三つ目のカテゴリーの楕円形、ナシ型、ドロップ（涙）型が続く。バロック真珠（16世紀末から17世紀初頭にかけイタリアで誕生し、ヨーロッパの大部分へと急速に広まった美術・文化の様式を「バロック」と呼ぶのは、ここからといわれる）として知られている不規則な形の真珠は四つ目のカテゴリーに分類された。そして、形状、重さ、光沢や表面の質によって分けられた天然真珠は、取引業者に高額で売却された。真珠は船で運ばれ、世界各地の富める人々の手元に届けられた。（https://kumihiroi.com/copy-of-parel-silhouet による）

14

マナール湾の真珠採りを題材にしたオペラ

ビゼー「真珠採り」1863

舞台はセイロン島の浜辺の村。

真珠採りの頭領ズルガと、彼の旧友ナディールとの、今は巫女となっているレイラという美しい女性をめぐる、嫉妬と友情と運命の物語。

レイラは長年の不在の後に、身分を（顔も）隠して島に戻ってくる。その直前にやはり島に戻っていたナディールは、すぐ彼女に気づくが、棟梁となっていたズルガは気づかない。ナディールとレイラは昔の恋をよみがえらせる。

駆落ちを誓った二人だが、ナディールが門衛に捕まってしまう。怒り狂うズルガだが、ふとしたことで、かつて自分の命を救ってくれたのがレイラだったことを知り、二人を救おうと、街に火をかける。

それを見ていた長老がズルガを告発し、ズルガは命を落とす。火事の混乱の中で逃げおおせた二人の喜びの歌を遠くに聞きながら…

第1幕レイラとナディールのデュエット最終シーン。「レイラの神聖な歌声に村人たちは畏敬の念を抱き、その声を耳にしたナディールは再度、それがかつて愛したレイラであることを確信します。」1886年ミラノ公演時のイラスト。ジョヴァンニ・スカレッリ作

ナディール（テノール）のアリア「耳に残るは君の歌声」

ヤシの木陰に身を潜め、
僕には今なお聞こえるようだ、
モリバトのさえずりのような
優しくてよく響く彼女の声が。

おお蠱惑の夜よ！
至上の恍惚よ！
おお麗しき思い出よ！
狂おしき陶酔よ！
甘い夢よ！

星明りに、
僕には今なお見えるようだ、
夕べの暖かい風に
彼女が長いヴェールを開くのが。

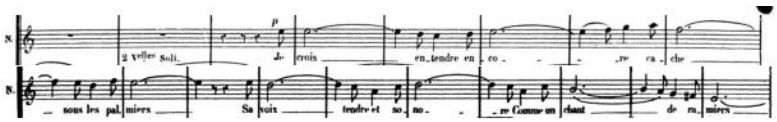
おお蠱惑の夜よ！
至上の恍惚よ！
おお麗しき思い出よ！
狂おしき陶酔よ！
甘い夢よ！

麗しき思い出よ！
至上の想い出よ！

https://youtu.be/WNo8LZNqi8c
17:10あたりから

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団
（ちなみにナディール役の河野泰佑さんは、卒業後東京藝大に進み、現在大学院在学中）

（8分の6拍子です）

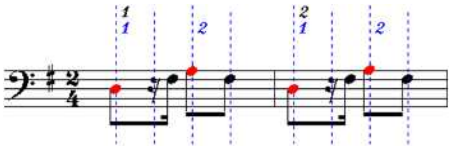

2 yeux soli_ _ _ _

ヨーロッパの異国趣味 Exoticism

18世紀から20世紀初頭のヨーロッパで流行した、アジアや中東など西洋以外の文化を取り入れようとする動き。15世紀から17世紀の大航海時代を機に、アジアやアフリカのモノや文化が西洋に大量に流入するようになったことを背景とする。ジャポニスム（日本）、シノワズリ（中国）、テュルクリ（トルコ）、オリエンタリズム（西アジア、中東）など。

クロード・モネ作『ラ・ジャポネーズ』１８７５

タンゴ「真珠とり」 リカルド・サントス



https://youtu.be/0_J1ZScNp9o

ドイツの歌曲家兼編曲家ハイノー・ガーツェがアリア「耳に残るは君の歌声」をタンゴに編曲し、リカルド・サントス楽団が1957年にリリースして世界的にヒット。コンチネンタル・タンゴ（アルゼンチンではなくヨーロッパのタンゴ）のスタンダード・ナンバーになった。なお、右写真のシングルレコード（45回転）、このジャケットのものを上念の母（昭和元年生まれ）が持っていたのを覚えています。

17

今日のまとめ

- 古くから、貝は人々の生活に、とても身近な存在だった
- 食料として採取するには、大きな労苦を伴う場合もあり、そこからいくつかの労働歌（民謡となる）が生まれた
- 食料として消費の後、殻を活用する一つの用途として、楽器があった
- 一方で、その美しさと稀少性から、それを持つ人の高貴さ、豊かさを象徴するものとして、服飾、装飾具として活用された
- 楽器として用いられる場合に、音楽による集団の形成・強化、呪術的効果はもちろん、貝の神秘性、稀少性が価値を加え、高めたと思われる
- オペラ「真珠採り」：当時流行していたエキゾチシズムが、女神のような美しい女性の純潔性へのあこがれ、独占欲とないまぜになり、真珠採取の労働の厳しさ、労働者を束ねる統率力のある男性像が出される。対照的に真珠の美しさに象徴される女性を複数の男が求め、悲劇的な物語となった

18

今後の予定

【貝類館】

- 9/20（月祝）13:00～15:30　甲子園浜の生きものウォッチング
  対象：小学生以上（小学生は保護者同伴）
  定員：20名
  場所：甲子園浜自然環境センター
  参加費：￥100
  要事前申込 9/6締切り
- 9/26（日）　10:30、14:00（各1時間）　貝を使ったサンドグラス作り
  対象：どなたでも（小学生以下は保護者同伴）
  定員：各8組
  場所：西宮市貝類館
  参加費：￥500（別途入館料必要）
  要事前申込 9/13締切り

※ お申し込みは、ハガキまたはFax。〒662-0934 西宮市西宮浜4-13-4
Tel&Fax：0798-37-0485

上念が制作するコンサートです